

3 少人数学習・TT指導

(1) 目標

- ①児童一人一人の特性に応じた指導を通して、児童のよさを引き出しながら、共に学び合う子どもの育成を目指すと共に、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。
- ②児童が主体的に問題解決に取り組み、自分の考えを進んで表現できるように支援する。

(2) 児童の実態

- ①本校の児童は、能力の個人差が大きく、特別な支援を必要とする児童がほとんどの学級に在籍している。そのため、児童の実態に応じたより細やかな指導が望まれる。
- ②少人数学習・TT指導を継続的に行ってきたことで、「算数の学習が楽しい」「分かりやすい」「発表しやすい」「これからも続けてほしい」等、児童・保護者共に少人数学習やTT指導に対して好意的である。(児童アンケートでも概ね80%前後の肯定的評価)

(3) 今年度の重点 (算数：少人数学習・TT指導の重点教科)

- ①1年生から6年生まで算数の少人数学習・TT指導を実施する。
- ②研究主題「主体的に考え、豊かに表現し、共に考えを深める子どもの育成」を受け、主体的に表現し、話し合いを通して考えを深めようとする児童の育成を図る。
- ③必要に応じて、単元の特性や児童の多様性に応じた小学習集団を編成し、個の実態に応じた寄り添った指導を実施する。
- ④児童の気付きや考えを生かしながら、問題解決へと導き、考える喜びや解決の喜びを感得する中で学び合いが深まるようにする。

(4) 校内体制及び連携

- ①学力向上対策委員会(研究推進委員会、少人数学習・TT指導担当)を校務分掌に位置付け、学年・学級の実態を考慮して実施計画を立てる。
- ②全学級の算数で少人数学習・TT指導を実施する。
 - ア 単元に入る前に、既習事項の確認をして児童の実態を把握する。その後、担当職員が随時相談しながら弾力的な学習集団の構成を考えたり授業の進め方について打ち合わせをしたりしながら共通理解をもつ。
 - イ 次の5点について打ち合わせを行う。
 - ・単元計画の進め方
 - ・教材や指導方法の確認と検討
 - ・授業の進度の確認と調整
 - ・児童の学習状況についての情報交換
 - ・評価についての検討と資料整理
 - ウ 算数以外の少人数学習・TT指導及び専科指導
職員の専門性を生かし「理科」「図工」「音楽科」「書写」で専科制を導入し、他の教科でも学習や活動の内容等に応じて積極的にTT指導を実施する。

(5) 職員配置

①算数

学 級	担 任	少人数学習・TT担当
1年梅組	六 郷	千 田 (4 h)
2年梅組	熊 木	千 田 (5 h)
3年梅組	黒 川	杉 井 (5 h)
4年梅組	三 浦	杉 井 (5 h)
5年梅組	木 村	仙 北 (5 h)
6年梅組	小 松	仙 北 (5 h)

②理科

学 級	担 任	専科担当
6年梅組	小 松	杉 井 (3 h)

③図工

学 級	担 任	専科担当
2年梅組	熊 木	杉 井 (2 h)

④音楽科

学 級	担 任	専科担当
1年梅組	六 郷	千 田 (2 h)
2年梅組	熊 木	千 田 (2 h)
3年	黒川・高階	千 田 (1.7 h)
4年梅組	三 浦	千 田 (1.7 h)
5年	木村・加賀谷	千 田 (1.4 h)
6年梅組	小 松	千 田 (1.4 h)

⑤書写

学 級	担 任	専科担当
3年	黒川・高階	千 田 (1 h)
4年梅組	三 浦	千 田 (1 h)
5年梅組	木 村	千 田 (1 h)
6年梅組	小 松	千 田 (1 h)

(6) 具体的な施策

- ①職員の専門性を生かして担当を配置し、必要に応じて柔軟に運用する。
- ②褒めて伸ばすを基本に、児童が主体的に学習に取り組むことができるようにする。
- ③各単元に入る前には、レディネステストの結果やこれまでの学習の様子を考慮して、柔軟な学習集団の編成や学習の進め方などの計画を立てる。コース別で学習する場合でも、その学年で到達すべき同じ技能や知識は身に付くようにする。
- ④児童の実態や単元の特性など学習内容に応じた多様な学習集団を編成し、少人数学習・TT指導によって児童の実態に寄り添いながら指導を実施する。
- ⑤研究主題に沿った共通実践事項を念頭に、学習集団に合った方法で自分の考えを表現し、相手に伝えるための工夫を意図的に実施する。
- ⑥少人数学習実施にあたっては、単元の特性を十分に把握し、保護者にも学習のねらいや計画、実施方法について事前に周知する。